

## 隠岐地区会員保育所(園)研修会報告

島根県保育協議会 会長 中山 哲夫

去る9月28日、隠岐の島町隠岐ビューポートホテルにおいて隠岐地区会員を対象とした職員研修会を開催しました。講義・演習による研修会方式で、テーマは「語学力を育てる一子どもことばから考える保小連携」とし、講師は島根大学の肥後功一先生にお願いしました。隠岐地区会員保育所(園)が5か所と増えたこと、及び離島という地理的条件を考慮し隠岐の島での出前講座を実施することを年度当初にお約束をしていました。今回日曜日にもかかわらず会員の皆さま50名の参加を得て、お約束を果たすことができたこと大変感謝いたしております。今後とも、この出前講座は継続して実施したいと考えていますので、次期執行部にしっかりと申し送りしておきたいと思っております。

新制度に位置づけられる小規模保育事業は、3歳未満児を対象としていることにより過疎地等における小規模保育所は全く利用できない制度となっています。そして、社会福祉法人を廻る状況は法人課税問題、福祉医療機構退職共済制度公費助成見直し問題など地方の零細法人を直撃するような内容が続出しています。

今回のような研修会を利用して、地域の声をしっかりと聞き中央に届ける役割を果たすことの重要性も痛感しています。



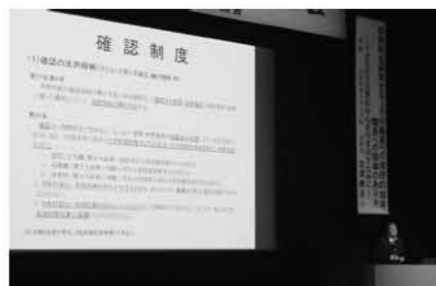
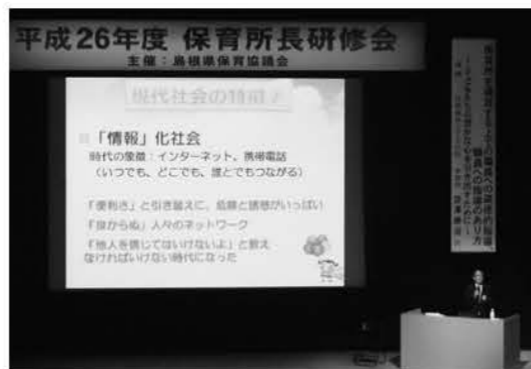
## 平成26年度「保育所長研修会」を開催しました 公立・私立施設長部会

●期日:平成26年11月20日(木) ●場所:島根県芸術文化センター「グラントウ」 ●内容:講義、行政説明

兵庫教育大学大学院 准教授 淀澤勝治先生より「保育所を運営する上での職員への道徳的指導、職員への指導のあり方〜子どもたちの豊かな心を引き出すために〜」という演題でご講演頂きました。子どもたちの豊かな感情を引き出すためには職員が豊かであることが大事。心にゆとりを持ち季節の移り変わりや自然に心をとめ、感動をすること。そして心豊かに日々を過ごして子どもたちに関わることで子ども達にも豊かな心が育まれていくという、とてもいいお話でした。また、現代社会の特徴である、基本的な生活習慣の自立の遅れ、直接体験の不足、コミュニケーション能力の弱さ、規範意識の低下などの現状がある中で、乳幼児期に道徳性の芽生えを育てていくことの重要性も学びました。

行政説明では島根県健康福祉部青少年家庭課 平岡 昇課長より、「保育所を取り巻く状況について」という演題で、来年度より始まる、「子ども・子育て支援新制度」についてご説明頂きました。

1. 条例改正 2. 量の見込みと整備計画 3. 確認制度 4. 公表 5. 経過措置について詳しく話して下さいました。



### 編集後記

大きな大会や研修会があると、会員の皆さんが西から東から長距離を移動して大勢集い、熱く学び、語りあう場面に出会います。第58回県大会もそんな皆さんの熱気溢れる素敵な大会でした。

島根県 2015 January No.50

# 保育協議会だより 第50号

発行日 平成27年1月15日 発行所 島根県保育協議会 編集者 総務広報委員会

## 第58回島根県保育研究大会

### 記念講演 おおらかにかまえて安心感を育てる保育を 〜小規模保育・異年齢保育にもふれて〜



熊本学園大学教授 宮里六郎氏

2001年に「荒れる子」「キレル子」と保育・子育て〜乳幼児期の育ちと大人のかかわり」(かもがわ出版)を著し、多くの子どものかかわる人々から注目されてきました。島根県にも講演会、公開保育などで来県され、厳しい状況のなかで、子どもたちのことを思い、頑張っている保育者たちに、「がんばりすぎないで」と優しく励ましのメッセージを送り続けています。今回は幼児期の「荒れ」「キレ」の実態と特徴を紹介しながら、保育の課題をていねいに語っていました。宮里氏には多くの著書がありますが、2014年には「子どもを真ん中に」を疑う〜これからの保育と子ども家庭福祉」(かもがわ出版)で、新しいこの本のタイトルにはびっくりします。今回の記念講演は、この本の内容がベースになっていますので、機会があれば一読をおすすめします。たくさんのお話を聞きたいと演題も長くなっていましたが、送られてきた講演資料をすべてレジュメに載せました。参加されたみなさんが各地域や職場などで、以後の研修に役立ていただければ幸いです。

さて、宮里氏は「おおらかにかまえてていねいにかかわる」具体例を示しながら、発達障害をもつ仲間を含んだ保

育現場での課題についても詳しく述べていました。「保育園の周りには田んぼがあった方がいい」「田舎の納屋の中には文化が詰まっている」と言って、過疎地のことに心を砕き、島根県のような過疎地での小規模保育の課題、異年齢保育の積極的な意義についても、全国の優れた実践をもとに研究をすすめています。研究は未だ中途だとしながらも、各種の学会や全国的な研究会で発信しています。

私たちが繰り返し確かめておきたい内容に、1、2歳児の子どものかかわりと保育現場や家庭での大人たちのまなざしのこと。3、4、5歳児の子どものかかわりと保育の質が問われていることがあります。再度、乳幼児期の大切な育ちは、その日々の生活のあらゆる場面の中にあることを肝に銘じさせる講演でした。

大会実行委員長  
森山 幸朗  
(豊南 あおぞら保育園 園長)



# 第58回 島根県保育研究大会を開催しました。

◎会期:平成26年11月8日(土) ◎場所:雲南市「加茂文化ホール ラメール」、雲南市「加茂健康福祉センター かもてらす」 ◎参加者数:451名



## 第1分科会

### 「元気に育て 浜田っ子」～保育士の気づきから見えてきたもの～

参加者117名が実践例の動画を見ながら補足説明を受け、16グループに分かれて

Q1, 研究についての感想、気づき、質問等

Q2, 各園での取り組み、工夫、苦勞、悩み等の2点を話し合いました。グループ発表で「安全面を重要視するあまり、活動しにくい禁止語が多くなる、保育者主導型になる」等の意見が多くあり、助言者岸本強先生より、◎小さな失敗を積み重ねていく中で、人から与えられたものではなく、五感を通して自ら培う事が大切。

◎五感を通じた人との関わり、物との関わりでの繰り返しの経験(達成感)から「自信、意欲、創造力、生活力、体力」を身につけていく話を聞きました。又、環境をいかに作るか子どもの潜在能力をいかに引き出すかは子ども達の生活時間の工夫、そして肯定語を使った保育。保育者が言葉を磨いていくことが大切との言葉に私たち保育者自身の気づきが多く見えた分科会となりました。

浜田/くもぎ保育園/岡本 穂子



## 第2分科会

### 「主体的な子どもを育てるためには…」～保育実践を通して考える保育臨床知～

昨今の若い保育者の悩みは気になる子どもの対応や保育に自信が持てない事ですが、子どもが主体的に育つには「心の育ち」を支える保育者の役割が大きいという視点から提案がされました。

「心の育ち」を検証する方法としてエピソード記述の協議から「保育臨床知」を導き出す独自の分析方法の提案があり、分科会では簡単なエピソード記述を使って臨床知を導き出すグループ演習がありました。原先生はエピソード記述の協議を深めることは臨床知につながりそれが保育の質の向上につながる事、生活習慣・運動等々、保育の方法を知る事も大事だが方法の先にある何を育てようとしているのかを見つけることが必要だと云われました。私達大人がどんな思いを子どもに向けているかが子どもの心を正にも負にも動かしていくことを肝に銘じながら、毎日繰り返される子どもとのかかわりを見つめ直す事が大事であり、自分を見つめ直すきっかけをもらった分科会となりました。

安来/荒島保育所/木戸 淳子



## 第3分科会

### 「ご飯とみそ汁を作って食べる子を育てよう！」～食を営む力を身に付けた大人になることを願って～

第3分科会は85名の参加の元、益田市保育研究会の「ご飯とみそ汁を作って食べる子を育てよう！」の発表がありました。その後グループディスカッションを行い、助言者の島根県西部農林振興センター益田北地域振興課 課長 生田千枝子様の講義・総評をいただきました。

その中で、地産地消の大切さを改めて気づかされ、地域によってさまざまな問題点はあるながらも、なるべく地元産を使用するという意識はどの保育園にも深まっていると感じました。地域の食材を使用することにより、地域の活性化に繋がりが豊かな食生活が送られる事、又旬の食材を一時加工品として冷凍したり干しておく保存方も有効だというお話もいただきました。地域との繋がりをもち保育士と調理師が連携を図りながら地産地消に取り組み各保育所の特色を生かした食育活動の実践発表は益田市保育研究会の「健康な心と体を持ち、ふるさとを思う心を育む」という願いが、しっかり伝わり参加者全員感銘を受けました。

邑智/おおち保育園/藤原 寿江



## フリー発表分科会

### 「あ！」～見るからはじまる～



この度、初めての試みでフリー分科会にてあさり保育園・さくら保育園からの提案発表がありました。

「子ども同士の関わりはいつから始まるのだろうか? 乳児期からでも関わりがあるのではないか」という疑問をもち、子どもの様子を見て、観察しまとめられていました。子どもの姿から見えてきたものは、【関わりは0歳児の「見る」から始まっている】ということです。そして「少し上の子の存在」が大切になってきます。

保育園は様々な年齢の子が集まる大きな子ども集団です。保育者が一つ一つ教えるよりも、他の子どもの様子を見て、真似て、関わり、教え合っていく良さがあります。今までとは少し違った視点で子どもたちを見ると「あ！」と思う発見や驚きがあり、そのためには、私たち保育者は子どもと子どもをつなぐ環境を作っていかなければいけないという提案発表でした。

参加された皆さんから乳児の保育は、日々生活、安全に追われがちです。その中で少し視点を変えて子どもたちを見たり、言葉がけを変えていきたいという意見等様々な意見がありました。

江津/さくら保育園/舟木 弘美

## 人材育成分科会

### 「リーダーって呼ばないで」

人材育成分科会では「リーダーって呼ばないで」というテーマのもと、リーダーとして仕事をする中で抱えている悩みを参加者と共有すること、解決のためのヒントを得ることを目的に話し合いを行いました。まず初めに、県社協主催の保育所指導的職員研修で実施させてもらった「保育所におけるリーダーの悩み」についてのアンケート結果をまず第2保育園の竹内園長より報告していただき、多くのリーダーに共通する悩みの多くが「人間関係」「労務管理」「人材育成」であることを確認しました。その後は4つのグループに分かれての「人間関係」「労務管理」「人材育成」の悩みを中心に話し合いをしました。話すことで解決できるわけではありませんが、参加者の様々な考えを聞く中で解決のためのヒントを得られた方もいたり、有意義な話し合いの場になったようです。会の終わりには笑顔が多く見られ、今回のような「同じ立場の人と悩みを共有する」場の大切さを再確認することができた分科会でした。

江津/あさり保育園  
相山 慧



次回開催地/江津市  
主催/江津市保育研究会

平成27年10月24日(土)  
会場/江津市総合市民センター

